

お知らせ

○マスク等の寄贈にご協力いただき、ありがとうございました

4月20日から寄贈のお願いをしてみました。マスク等の医療防護具につきましては、大勢の市民の方々、企業の皆様、国や県、海外からもマスクをはじめ数多くの温かいご支援をいただいたことにより、その確保に一定の目途が立ちました。

5月31日をもって「寄贈のお願い」を終了させていただきました。

皆様の温かいご支援に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



○院内公開講座のご案内 (原則第4水曜日11:00~12:00 場所:東館4階 講堂)

開催日	テーマ	講師
7/22(水)	コマーシャルではうかがい知れない新型たばこの“怖〜い”隠されたすがた〜禁煙治療は 市内のかかりつけ医で〜	呼吸器内科 西川 正憲

申込・問合せ: 病院総務課 ☎ 25-3111 (代)

病院発 クッキングコーナー

栄養室提供

夏野菜のさっぱり冷しゃぶ



※写真は1人前です

これからの季節にぴったりなオクラやトマトなど夏野菜を使用した冷しゃぶをご紹介します。

今回はごま酢のかけだれをご紹介しますが、ごまの代わりにレモンなど柑橘類の果汁を入れるとよりさっぱり召し上がれます。是非、色々試してお好みの味付けを見つけてみてください☆

しっかり食べて栄養を摂り、暑い夏をのりきりしましょう!

《栄養成分 (1人分)》	
エネルギー	251 kcal
炭水化物	13.1 g
たんぱく質	14.9 g
脂質	15.5 g
塩分	1.1 g

《材料(2人分)》

- 豚ロースしゃぶしゃぶ用 --- 120g
- オクラ --- 6本
- 玉ねぎ --- 1/3個
- トマト --- 2/3個
- 醤油 --- 大さじ1
- 酢 --- 小さじ1
- 砂糖 --- 小さじ1
- すりごま --- 大さじ1

《作り方》

- ① 豚ロースを食べやすい大きさに切って茹でる。ざるにあげて水気を切っておく。
- ② オクラはさっと茹で、0.8cmの小口切りにする。
- ③ 玉ねぎは薄くスライスして水にさらし、ざるにあげて水を切っておく。
- ④ トマトは食べやすい大きさにカットし、①~④をお皿に盛り付ける。
- ⑤ かけだれの調味料をあわせ、上からかけて完成!



ふれあい 65



「江の島の思ひ出」 画 児玉生菜 (看護師)

今号の内容

- ◇ 新型コロナウイルス感染症の診療について
- ◇ ごあいさつ
- ◇ 緩和ケアセンターを開設しました
- ◇ 病院を支える「除菌隊」
- ◇ お知らせ
- ◇ 病院発クッキングコーナー
- ◇ 夏野菜のさっぱり冷しゃぶ

新型コロナウイルス感染症の診療について

臨床検査科 清水 博之



2019年12月に中国に端を発した新型コロナウイルス感染症は、日本にも飛び火し、急激な勢いで感染者数が増加しました。密閉・密集・密接の環境、いわゆる3密の環境を避けることが社会全体に求められ、これからは新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式、すなわち人との間隔を空けることやマスクの着用、手洗いを実践するように提唱されています。

■ 当院の感染予防対策

当院は湘南東部医療圏で唯一の第2種感染症指定医療機関です。ダイヤモンド・プリンセス号の患者さんをはじめ、その後も多くの新型コロナウイルス感染症の診療を行ってきました。当院のスタッフは、新型コロナウイルス感染症が疑われている患者さんに対して、診断が確定する前から感染予防対策を徹底しています。また、陽性患者さんと一般の患者さんの動線が交わることをしないようエリア分けを厳格に行っています。そのため、今日までスタッフおよび他の患者さんに一人の院内感染も出せていません。これからも細心の注意を払って診療に携わり、市民の皆さまが安心して受診できる環境を整えていきます。

■ 新型コロナウイルスの検査

現在、新型コロナウイルスを診断するためにはいくつかの方法が承認されています。もっとも標準的な方法がPCR検査です。しかし、この方法は結果が出るまで1~2日間かかります。当院ではさらに、迅速抗原検査も行っています。これは1時間ほどで結果が分かりますが、新型コロナウイルス感染症であったとしても、検査で陰性になることが多い(感度が低い)という欠点があります。この2種類の検査を上手く組み合わせ、より早く、より正確に診断ができるように工夫をしています。

これからも市民の皆さまのための総合病院として、新型コロナウイルス感染症だけでなく、その他の疾患に対しても、これまでと同様に患者さんのニーズに合わせた安全で質の高い医療を提供するように努めてまいります。

ごあいさつ

心臓血管外科 南 智行

皆様こんにちは。2020年4月より心臓血管外科診療科部長を拝命しました南智行と申します。私は横浜市出身で、大船にある栄光学園に通学していました。学生時代はよく藤沢駅周辺のサッカー専門店や大型ディスカウント店に通っていたのを覚えています。その後横浜市立大学を卒業し、県内施設、留学、大学勤務を経て、今回縁あって藤沢市民病院で働くこととなりました。久しぶりに藤沢駅に降りた際は、町が近代的に大きく様変わりしていたことに驚かされました。

心臓血管外科では狭心症や心筋梗塞、心臓弁膜症、大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤に対する治療を行っております。中には急に発症し命に直結する疾患もあるため、緊急手術が必要となる場合もあります。そのような緊急手術にも積極的に対応しています。緊急を要する状況でなければ、手術時期や危険性をご本人、ご家族と十分検討し、治療を進めていければと考えています。お気軽にご相談ください。

現在は社会全体が新型コロナウイルス感染症という問題に直面しております。市民の皆様を守るため、組織の一員として微力ながら貢献できればと思っております。何卒よろしくお願いいたします。



緩和ケア内科 佐伯 美奈子

2020年4月1日より緩和ケア内科医長を拝命しました佐伯美奈子です。

私は、2006年に藤沢市民病院に赴任し、麻酔科医としてペインクリニックと手術室での臨床麻酔に従事してきました。ペインクリニック外来では、腰下肢痛、頸肩腕痛や帯状疱疹に関連した痛みなど、様々な慢性痛・神経障害性疼痛の治療を行っています。また、がんに関連した痛みやしびれの治療も行ってきました。緩和ケア内科では、がんの痛みの治療だけではなく、精神的・肉体的苦痛、不安、日常生活での不便など、痛み以外の様々な症状に困っている方々に『自分らしい生活をしやすいするためのコーディネーター』として対応していきたいと考えております。病気の診断を受けて、治療が始まる時から、その時々で“困ること”が起こった場合、最善の策を患者さんやそのご家族と一緒に考えていきたいと思っています。

緩和ケア診療は、医師だけでなく、専門の看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、栄養士が知識と経験を集めてチームとして診療いたします。緩和ケアを必要としている患者さんのお役にたてるようにチーム一丸となって頑張っております。よろしくお願いいたします。



皮膚科 佐川 展子

2020年4月より藤沢市民病院皮膚科に着任いたしました、佐川展子と申します。

横浜市立大学 皮膚科学教室に所属し、これまで大学病院や横須賀地区の協力病院で診療して参りました。2017-2018年度は前任の侯部長と共に当院に勤務し、この度ご縁があり再び赴任することとなりました。

皮膚科の疾患はアレルギー疾患、良性・悪性腫瘍、皮膚感染症、膠原病、水疱症など多岐に渡ります。組織検査や血液検査や皮膚テストなどで診断および原因を精査することは皮膚疾患を治療するうえで大事な側面です。また、近年は注射製剤である生物学的製剤をはじめとして治療薬の選択肢が増えており、アトピー性皮膚炎や慢性蕁麻疹や乾癬など、難治で繰り返していた症状を抑えることができるようになってきております。

皮膚科に受診される患者さんは日常的な痒みや見た目などの観点から不安やストレスを感じていらっしゃる方も多いと思います。検査から治療まで、地域の皆様に安心して診療をお受け頂けるよう心がけてまいりますので、よろしくお願いいたします。



放射線診断科 藤井 佳美

2020年4月1日から放射線診断科医長を拝命しました藤井佳美と申します。私は初期臨床研修、後期臨床研修を山口、京都の病院で行った後、ご縁があって神奈川に異動となり、以降12年間、当院で放射線科医として研鑽を積んでまいりました。

放射線診断科ではX線撮影(レントゲン)、CT、MRI、超音波検査、PET含む核医学検査などの画像診断を行っています。検査の範囲は頭の前から爪先まで多岐にわたり、画像を通じて多くの疾患の診療にかかわっています。また画像診断の技術を応用したIVR(アイ・ブイ・アール:画像ガイド下治療)も放射線診療科で行っています。IVRとは血管内にカテーテルとよばれる細い管を挿入して、出血を止めたり、腫瘍に薬剤を注入したりする治療法です。血管の中から治療を行うため、手術と比べて体への負担が少なく、がん治療など幅広い分野で今後さらに普及すると考えられています。

画像診断は日進月歩の分野です。CTやMRI装置の性能向上はめざましく、近い将来にはAIの活用も期待されています。放射線診断科では専門の知識と経験をもつ放射線技師、看護師と協力して、最先端の技術を取り入れつつも温かい医療を目指します。画像の専門家チームとして当院の診療を支えてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



精神科 大槻 正樹

2020年4月1日から藤沢市民病院で精神科医長を拝命しました大槻正樹と申します。

これまでに総合病院では横浜市立大学附属市民総合医療センターの勤務歴があります。職歴の大半は精神科病院に勤務して、主に精神科救急を担当していました。

当院の精神科では、がん治療等の身体疾患の治療に伴って生じる抑うつ状態、せん妄、不安、不眠などに対して、他科と共同で治療にあたります。そのほかに、自殺企図などで身体的な治療が必要なために入院される患者さんの診

察も行います。また、軽症の精神疾患のある患者さんで身体疾患の治療が必要になった場合にも対応します。当院は大きな病院ですが、精神科病床がないため、重症の精神疾患がある患者さんの身体疾患の治療は困難です。その場合は精神科病床のある総合病院へ紹介して治療をお願いすることがあります。

以上のように精神科単独で精神疾患の治療を行うというより、他科の治療が円滑に行えるようお手伝いするのが主な仕事になると思います。精神科医1名で微力ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

◆ 緩和ケアセンターを開設しました ◆

がんは日本人の2人に1人が罹患するポピュラーな病気になりました。厚生労働省の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき、日本国内であればどの地域でも、適切ながん診療が受けられるようになりつつあります。

当院は平成17年1月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、質の高いがん診療の提供をめざしてきました。これまでの緩和ケアチームや緩和ケア内科外来などを統合した、緩和ケアセンターを令和2年4月に開設し、より適切ながん診療を提供してまいります。

「緩和ケア」と聞くと、治療ができなくなってから受けるものというイメージがまだまだ根深くありますが、昨今の考え方は、がんと診断された時から治療と並行して行うケアとされています。緩和ケアセンターでは、がん患者さんやご家族の皆さんに対して、診断時から「こころ」や「からだ」の辛さを少しでも緩和できるように、医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの多職種が連携してチーム医療を行っています。6月からは「がん看護外来」も開設し、より多くの患者さんやご家族に寄り添った緩和ケアの提供ができるよう努めてまいります。

緩和ケアセンター 江口 成美



病院を支える

除菌隊のみなさんを紹介します

平成23年4月1日から365日、毎日、「藤沢市民病院の感染予防のため」に除菌隊のみなさんは活躍されています。主なお仕事は、床頭台、ナースコール、ベッドの柵やフレーム、オーバーテーブル、部屋のドアのぶ、廊下の手すり等を専門に除菌クロスで黙々と拭くことです。そのお蔭で患者さんは安心して入院生活を送ることができ、医療スタッフも業務に専念ができています。コロナ関連で不安な日々が続きますが、藤沢市民病院は、色々なスタッフに助けられて成り立っています。これからも、病院の安全な環境づくりに協力をお願いします。

記事 看護部 川田 弘子

